

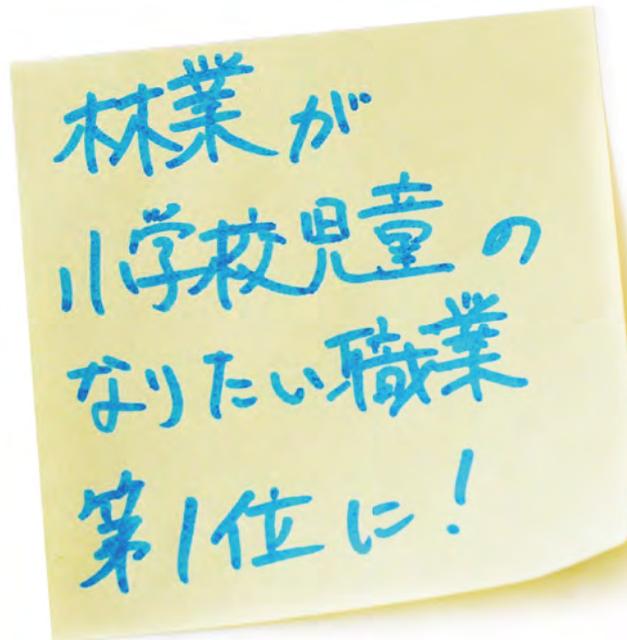


## 創刊号

与謝野みらい新聞 創刊号  
2017年1月25日発行

発行所 ・与謝野町役場  
編集 ・企画財政課  
・総合計画策定委員会  
ワーキングチーム

# 与謝野みらい新聞 ってなに？



与謝野町では、まちの将来像等を示す「第2次総合計画」を、これから約1年をかけて策定していきます。「計画策定」と聞くとお堅い表現となりますが、「未来の与謝野町をどのようなまちにするのか」みなさんと一緒にまちづくりを考えるとことです。

既に取り組みは始まっています。しかし、どこでどんな取り組みが行われ、どのような意見が出ているのか関係している人にしか分かりません。そこで、この与謝野町の未来を示す計画策定の取り組みを、住民のみなさんにお伝えするため「与謝野みらい新聞」として発行することとしました。この新聞をご覧いただくことにより、計画策定に関心を持っていただき、一人でも多くの方に参加していただきたいと思っています。

# さあ！！

## 一緒に与謝野町の未来を語り、未来を創っていきましょう

## I. 安心と生きがいのある福祉のまちづくり

### ①子育てするならこのまちで

- ・オール子育ての与謝野町！
- ・誰もがお父さんお母さんお兄さんお姉ちゃん！
- ◎**そのために**…
- ・子育て、孫育て、地域育てをしっかりと継続！

### ②いきいき、安心の笑顔が輝く

- ・いくつになっても役割のもてるまち！
- ・高齢者シェアハウスがある！
- ・ひとり暮らしの高齢者がいない！

### ③自らつくる元気なからだ

- ・健康なまま最後を迎えるピンピンコロリ与謝野町！
- ・病院にかからず「コロリ」できる与謝野町！
- ◎**そのために**…
- ・健康は自己管理！自己管理をしっかりとしていこう！



## 未来の与謝野町はどうなっているのか… 2040年の与謝野町をソウゾウしてみました

与謝野町役場の20代～30代の若手職員を中心に総合計画策定ワーキングチームを組織しました。

2040年を見据えたまちづくりを進めるため、与謝野町の現状と将来を意識して考える「フューチャーデザイン」の手法を学び、職員一人ひとりが主体性と創造性を引き出し、今後、住民のみなさんとともに与謝野町の未来を考えます。

10月18日、合併10周年記念第2次与謝野町総合計画策定シンポジウム「あなたがつくる未来思考のまちづくり」を皮切りに、与謝野町役場の若手職員によるワーキングチームが、2040年を見据えた総合計画づくりを住民のみなさんと進める準備を始めています。

手始めとして、第1回ワーキングチーム会議では、与謝野町の2040年を想像し、未来に向かって今から

できることを、第1次与謝野町総合計画の6つの分野ごとに創造してみました。

これらはワーキングチームの準備体操として出された意見であり、決定したものではありません。今後、ワーキングチームが住民のみなさんと未来を語り、創造して、総合計画を創る予定としています。

みなさんは、どんな未来をソウゾウされますか？



## II. 伝統を活かし未来にチャレンジする産業づくり

### ①工夫して夢を広げる元気な農業

- ・草刈りロボット登場！機械化による就農者増加！みんなが農家！
- ・与謝野町産食材に世界が大注目！芸能人にも人気の豆こめ米！
- ◎**そのために**…
- ・おいしいはあたりまえ！まずは安心安全なものを家族に食べてもらう！

### ②100年先の暮らしへつなぐ林業

- ・林業が小学生のなりたい職業第1位に！
- ・森の学校が与謝野町でメジャーに！
- ◎**そのために**…
- ・大手企業から支援を受け、小中学校で定期的にワークショップを開催！

### ③地域に貢献する元気な商工業

- ・さまざまな事業者が集まる特徴的エリアがある！
- ・伝統を大事にしているまち！
- ◎**そのために**…
- ・新しい事業にチャレンジしやすい環境をつくる！

## III. 自然と安全を守るまちの基盤づくり

### ①美しい山、川、海、空

- ・大江山が紅葉の名所！川にオオサンショウウオ！
- ・阿蘇海の水質浄化が進み泳げる！
- ◎**そのために**…
- ・組織の裾野を広げ、全世代で環境意識の高揚を図っていく！

### ②ごみは資源にリサイクル

- ・ゴミの概念を変える！ゴミ＝資源！資源のシェア！
- ・何でも処分可能なゴミ処理場ができ、バイオ燃料が広がる！
- ◎**そのために**…
- ・ゴミを有機的に活用する循環型社会の構築

### ③災害に強い安心・安全なまち

- ・みんなの笑顔がいっぱい安心安全なまちにする！
- ◎**そのために**…
- ・「創造と共助」の気持ちで、地域コミュニティを強くする！

## IV. 快適でやすらぎのある生活環境づくり

### ①調和のとれた魅力あるまち

- ・そのまま残す！
- ◎**そのために**…
- ・計画趣旨を理解し、住民と共に今の景色を残すアクションをおこす！

### ②うるおいのある暮らし環境

- ・田舎を生かした空間、施設づくり！
- ・与謝野町の魅力を発信し、人が集まっている！
- ◎**そのために**…
- ・既存施設をより魅力的にし、しっかりと運営管理を続けて行く！

### ③行きたいときに行きたいところへ

- ・自動運転機能付きの一人乗り自動車が行っている！
- ・公共交通優先の社会が実現している！
- ◎**そのために**…
- ・公共交通の不便さを改善して、住民に使っていただきやすくする！



## V. 明日の人材を育てる教育文化のまちづくり

### ①地域と共に育てる楽しい学校

- ・子どもがとにかく元気！
- ・地域と学校と生徒が循環している学校づくり！
- ◎**そのために**…
- ・今後10年間で子どもたちの生きる力を育む！

### ②生涯にわたって成長する喜び

- ・しっかりと地域の伝統を受け継がれている！
- ◎**そのために**…
- ・魅力人材の発掘・育成し、様々な施設を有効活用！

### ③遊びは心の栄養源

- ・仮想現実環境が発達し、全世界、全世代での交流が盛んになる！
- ◎**そのために**…
- ・森林宿泊のリアルサバイバルゲーム！今はとにかく自然と遊ぶ！

## VI. 協働で進めるまちづくり

### ①効率的な行政運営

- ・家で行政手続きができたり、庁舎外で証明書の発行ができる！
- ・役場にはロボット職員がいて、役場職員は50人になっている！
- ◎**そのために**…
- ・小学校などの空き施設を利用して庁舎をつくる！

### ②みんなでつくる元気な地域

- ・病気がない世界でいきいき生きている高齢者がいっぱいいる！
- ・女性区長が誕生して同性婚も認められる！

### ③住民・地域・事業者・行政のパートナーシップ

- ・一家に一台タブレット端末！
- ・動く歩道や自動運転バスの整備！
- ◎**そのために**…
- ・ネットワーク接続環境を充実させ、いつでもどこでもアクセス！

## 与謝野町第2次総合計画、第1回研修を終えて...

すまかひでのり  
杉岡秀紀

・福知山公立大学 地域経営学部 准教授  
・与謝野町総合計画審議会会長

PROFILE



- ・ みんなで子育て・孫育て
- ・ 高齢者・障がい者という言葉無くす
- ・ 高齢者シェアハウス

- ・ 自動運転
- ・ 泳げる川
- ・ イルカが見える海

- ・ 草刈りロボット
- ・ 芸能人に人気の豆ッコ米
- ・ 制服が着物

- ・ ロボット職員
- ・ 庁舎不要
- ・ バーチャル授業

これは全てひとつの自治体の職員から出てきた「24年後のまちの未来像」である。非常に創造的な視点、アイデアばかりである。

現在、京都府与謝野町では未来思考の面白い動きが起きている。対象は行政の最上位計画に位置づけられる総合計画づくり。与謝野町は3町の合併で出来たまちであるが、来年度に第1次総合計画が終了することを受け、第2次総合計画では、①みえるまちのためにつくる(創造的計画)

②みらい志向でつくる(長期的計画)

③みんなで作る(総合的計画)

という3つのコンセプトで総合計画づくりを始めている。

今年度は③みんなで作るを実践するために、まずは職員のコアチームをつくるべく、33名の若手職員に集まって頂き、①(自治や最近の手法)を学ぶ、②(未来思考)を体感する、③(当事者意識や能力)を高める、をキーワードに月一回のペースで職員研修を進めている。

①については、市長経験もある福知山公立大学の富野暉一郎副学長から「総合計画と職員参加、住民参加」について、高知工科大学教授の西條辰義教授から「フューチャーデザインとは何か」について、そして、issue + design(イシュープラスデザイン)の白木彩智さんから「高知県佐川町におけるみんなでつくる総合計画」の取り組みについて学べる場づくり、基礎的な情報や方向付けを確認した。佐川町については担当職員のお二人と一緒に現地に話を伺いに行った。

②については、地元NPOやファシリテーションに定評がある企業のお力も借りながら、昨年11月から「第1次総合計画の未来志向を棚卸し」を実践している。担当かどうかよりも、職員一人ひとりの関心に沿って、そして未来思考で前期計画、後期計画の全30施策を検証するのが最大のポイントである。言うまでもなく、未来を構想するためにも、まずは過去から現在をしっかりと見る必要がある。

また、③については、2月4日にファシリテーション研修を行うこととしている。これは5月から、住民参加、協働による計画づくりに取り組むため、与謝野町職員自らファシリテート能力を高める必要があるからである。さて、そんな枠組みで進む中で、第1回研修後の交流会で、職員の数名の方から実に嬉しいコメントを聞くことができた。「未来思考で議論するのはとにかく楽しい、ワクワクした」「入庁してからこんな本気でまちのことについて語り合ったことはなかった」「今の仕事を越えて、自分の想いや考え、アイデアを言える場があって嬉しい」中には涙目で感想を訴えてくれる

職員の姿もあった。ここで考えたいのは、この感想が意味することは何かということである。

それは、①に「職員の多くは自分なりの様々な思いや考え、アイデアがあるにも関わらず、それを表現したり、伝えたりする場が少ないのではないか?」②に「職員の多くは自らの業務に忙殺され、また目の前の住民の対応、目の前の課題解決をすることだけで妥協的満足しているのではないか?」③に「職員の多くは志や想いを同じくする仲間が庁内外にも関わらず、課や組織を越えて、つながる機会が少ないのではないか?」とのシンプルな問い、それでいて本質的な問題意識である。もしそれが現実とするならば、本当にもったいないことだと思う。

職員の人材育成は人事課や職員課の案件、またOJT(仕事を通じた従業員教育)こそが最大の人材育成である、との声が聞こえて来そうであるが、それは必要な事と承知のうえで、私が言いたいのは「まち全体のことを構想するまちづくり条例や総合計画、総合戦略づくりこそ人材育成の最大のチャンス」ということである。なぜなら、この計画や条例づくりこそ、立場や年齢を越えて、対等に議論できる最大のチャンスだからである。さらに言えば、過去から現在の時間軸だけで議論すると、どうしても人生の先輩の方の発言力が大きくなりそうであるが、未来思考の視点を入れることが出来れば、むしろ若い人ほど未来に責任を持って議論でき、全体としてもバランスがよくなる。そして何より、実践してみて初めて実感できることであるが、「未来を語ることは楽しく、議論は実に創造的になる」ことである。

何事も楽しくないと続かない。これは趣味でも仕事でも同じである。ぜひこれからの総合計画等を作られる自治体においては、楽しい未来をつくるためにも、計画づくりに未来思考と人材育成の視点を入れることをお勧めしたい。

最後にこれは与謝野町だからできるのでは?という質問が聞こえてきそうなので、一言付言をしておきたい。確かに与謝野町では私よりも若い山添藤真町長が誕生し、新しい風が吹き始めている。しかし、私が感じるのは、それはあくまできっかけであり、職員の皆さんこそが町長の志に共感し、むしろ新しい風を吹かしているのではということである。そして、徐々にだがその風に共感する住民の皆さんの輪も広がりつつある。こうした動きを一自治体で終わらせるのはもったいない。

すべてはみんなのまち、みらいのまち、みえるまちのために  
(文責:杉岡秀紀 編集:企画財政課)

## ファシリテーション研修の参加者を募集します

総合計画づくりは“いかにして未来を描くか”が大切と言われ、町ではこの未来を描く作業を次のとおり予定しています。

- ①平成28年10月 昔と今を知る
- ②平成29年1月 変化を読む
- ③平成29年3月～6月 想いを集める
- ④平成29年5月～8月 未来を語り合う
- ⑤平成29年9月 未来を描く
- ⑥平成30年以降 できることから始める

想いを集めたり、未来を語り合うためには、最低でも2人、4～5人のグループ、20人規模の会議、100人規模の集会等でコミュニケーションを取りながら行うこととなります。総合計画の策定に限らず、普段の生活において、例えば会社や地区の会議進行や、グループのメンバーや部下とのコミュニケーションにおいて、ギスギスした人間関係、本音で話し合えない、時間だけが過ぎて何も結論が出せないなどという状況がありませんか?組織や社会において、心地よい場づくりのノウハウをお持ちの講師をお招きし、研修会を開催します。座学や体験など専門家から直接学べるまたとない機会ですので、是非ご参加ください。※町職員との共同受講となります

- 日 時 平成29年2月4日(土) 10時～17時〔途中1時間休憩〕
- 場 所 与謝野町生涯学習センター知遊館2階 研修室1・2・3
- 講 師 NPO法人 場とつながりラボHome's vi〔ホームズビー〕
- 内 容 ワークショップ体験、講義など
- 定 員 10名〔先着順〕
- 参加費 無料

参加のお申し込みは、与謝野町企画財政課(☎43-9015)まで氏名、性別、年齢、電話番号をお伝えください